

資料6: 一ヶ月検診時調査票

1ヶ月検診時調査票

母親氏名

児氏名

児生月日

育児は順調か: 問題あり なし どちらともいえない

児の問題点:

退院後何らかの理由で病院かかった回数: 回

退院後何らかの理由で病院に電話した回数: 回

母乳保育: 完全母乳 ほとんど母乳 母乳と人工ほぼ同じ位

ほとんど人工 完全人工

喫煙は: すう 本/日

すわない: いままですったことが無い 妊娠後やめた 分娩後やめた

育児不安: 全くなし 少しあるが常識的 やや不安が強い 大変つよい

不安の具体的内容:

## かかりつけ医と育児不安に関する実態調査

—親たちのかかりつけ医とプレネイタルビジットに関する意識調査—

担研究者 中村 敬 日本子ども家庭総合研究所情報担当部長  
(大正大学人間学部教授)

上石晶子 埼玉社会保険病院小児科

### 研究要旨

21世紀の子どもたちを取り巻く社会環境は、決して恵まれているとは言い難い。子どもたちの健康や生活を守る社会体制、教育のための制度はよく整備されているが、それにもかかわらず、育児不安は増大し、育児にまつわるトラブルが続出している。このために、地域において重要な役割を担うと考えられる子どものかかりつけ医に対して、親たちはどのような期待をもち、どのような医師像を求めているのか、また地域で育児不安予防対策として事業化されているプレネイタルビジットを活用した親たちの感想や今後の展開における期待について調査を行った。

結果は、かかりつけ医「あり」は74.5%、「どちらともいえない」は16.0%、「なし」は8.9%であった。求めるかかりつけ医の医師像としては、「子どもをしっかりと叱り、親の悪いところはきちんと指摘するきびしい父親的態度の医師像」、「子育てに共感してもらえる子育て世代の女性の医師像」、「設備がよくスタッフの対応もよくやさしくて子ども好きな医師像」、「症状や薬の説明をよくしてくれる医師像」、「地域の親の活動や勉強会に気楽に参加してくれる医師像」、「はやっていて近所の評判のいい医師像」、「休日夜間の相談にも応じてくれる近くの医師像」などであった（因子分析）。

プレネイタルビジットについては「聞いたことがある」、「知っている」と答えたものは90人（9%）であった。実際に利用したものはわずか12名であるが、「安心してお産に臨めた」、「出産後の子育てに役立った」と回答している。56%の回答者はこの制度があったら利用したいと回答し、86%の回答者はこの制度の意義を認めている。

### 見出語 かかりつけ医、プレネイタルビジット 出生前小児保健指導

#### A. 研究の目的

21世紀の子どもたちを取り巻く社会環境は、決して恵まれているとは言い難い。確かに健康を守る保健医療体制はよく整備されているし、生活を守る福祉制度や教育の制度も、同様に、よく整備されている。

しかし、それにもかかわらず、育児不安は増大し、育児にまつわるトラブルが続出しており、地域における社会的な子育て支援が重要な課題として提起されている。本分担研究班では、地域において重要な役割を担うと考えられる子どものかかりつけ医に

対して、親たちがどのような期待をもっているのか、またどのようなかかりつけ医像を描いているか、これからの地域の医師に求められるものは何かについてアンケート調査を行った。また地域でプレネイタルビジットを活用した親たちはどのくらいいるのか、利用した感想はどうか、今後の展開に対してどのような期待をもっているかについて調査を行った。

## B. 研究の方法

### 1) 調査対象

調査対象は、財団法人母子衛生研究会が主催する全国の流通店舗内に設置している母子保健相談室 230 カ所を訪れた乳幼児とした。調査対象の抽出は、12月20日以降各相談室を訪れた乳児 5 人、幼児 5 人を目安として、各 10 人ずつの乳幼児、約 2300 人とした。

### 2) 調査方法

調査方法は自記式アンケート調査とし、調査票（論文末尾に添付）は各母子保健相談室相談員をとおして、相談室を訪れたクライアントに手渡してもらった。調査票回収は直接分担研究者のもとに郵送してもらう方法をとった。

### 3) 集計方法

集計は SPSS を用いて行った。

## C. 結果

今年度分担研究報告書を作成するにあたって、調査票の回収途中であり、暫定的な集計にとどめた。対象数は正確には把握できないが、概数 2300 件であり、集計時点での回収数は 996 件で、回収率は約 40%であった。現在、最終段階での回収数は

1028 件、回収率約 44.7%である。

今回は、996 件の集計について結果の概要を述べ、詳細な集計結果については来年度研究報告書に掲載する。

1) 回答の 98.4%は女性であり、回答者の 40.3%は 20 代、56.8%は 30 代であった。

2) 子どもの数は一人が 66.5%、二人が 27.7%、三人以上が 5.7%であった。

3) 相談室で相談をした子どもの出生順位は、68.2%が第一子についてであり、第二子以上は 13.8%であった。

4) 相談の対象になった子どもが第一子の場合、年齢が 1 歳までが約 60%であり、相談対象が第二子以上では、年齢 1 歳までが約 58%を占めていた。したがって、全体の相談対象の子どもの年齢は概算で 6 割が乳児、4 割が幼児という割合になる。

5) 家族構成は 3 人が 57.0%を占め、4 人が 23.0%、5 人以上が 19.0%であり、81.8%が親と子どもだけの核家族であった。

6) 居住地域については、全国に広がっており、地域分布については来年度報告に記載する。

### I. かかりつけ医に関する集計結果

7) かかりつけ医の有無については表 1 に示したが、「あり」は 74.5%、「どちらともいえない」は 16.0%、「なし」は 8.9%であった（表 1）。

8) かかりつけの医院または病院は大体いつも同じ医院・病院と答えているものは 77.5%、子どもの様子に合わせてというのが、20.1%であった（表 2）。

9) かかりつけ医は開業医が 68.4%、大規模な病院が 23.5%であった（表 3）。

10) 開業の医院の場合、親たちからみた医

師の専門性は、小児科医 62.1%、内科／小児科 29.2%であり、かかりつけ医が病院の場合 92.5%が小児科を受診している(表 4、表 6)。

11) かかりつけ医の年齢(開業医院の場合)は 40 代がもっとも多く、次いで 50 代 27.3%、60 代 11.6%であり、40~50 代の壮年の医師が多い(表 5)。

12) かかりつけ医が病院の場合、いつも決まった医師に診てもらっているのは 49.2%、数人の決まった医師に診てもらっているが 36.7%であった(表 7)。

13) かかりつけ医の診療体制によると、育児相談は 45.5%が日を決めて応需、予防接種は 50.8%が日を決めて対応している。予約診療制を取り入れているところは 45.5%であった(表 8)。

14) 夜間や休日の診療体制は、38.3%が診てもらえないと答え、22.3%が当番のときのみ診てもらえると答えている(表 8)。

15) 診療以外の子育てサークルや医師以外の相談窓口は栄養相談が 25.9%に設置されている程度である(表 8)。

16) かかりつけ医を利用するときは、急病、予防接種、健康審査が主であり、子育てに不安を感じたとき、子どものことでの相談、家族のことでの相談などでかかりつけ医を利用したのは 8.2%程度であった(表 9)。

17) かかりつけ医から子育てのアドバイスを受けたかについては、殆ど受けていないか全く受けていないを合わせると 63.6%であり、ときどき受けているが 31.0%であり、いつも受けているのは、わずか 4.2%に過ぎない(表 10、図 1)。

18) 医師からのアドバイスは参考になったかの問いでは、61.8%が参考になったと答

えている(表 11)。

19) 参考にならなかったと答えているものは、わずか 2 例であるがかえって不安が増強したというニュアンスが感じられる。

20) かかりつけ医に何を望むかという問いでは、急病のときの治療 89.0%、待たされない診療 67.8%、健康診断や健康に関する相談 60.6%、予防接種 55.4%と上位 3 位を占めていた。子育てへのアドバイスを望む声は 42.7%であった。専門施設に関する情報提供や勉強会などへの期待の声も 2~30%にみられた(表 12)。

21) 求められる医師の年代は 40~50 代の壮年の年齢の医師であった(表 13、図 2)。

22) いつも子どものことで相談する相手はという問いに対して、かかりつけ医の占める割合は 28.4%であった(表 14)。

23) かかりつけ医にどんな医師像を求めるかを因子分析により探ってみた。26 項目の質問項目を用意し、4 検法順序尺度(きわめて大切、まあ大切、さほど大切ではない、大切ではない)により回答を得た。各質問項目の集計結果は図 3 に示した。これらの項目の中から 34 項目について因子分析を行うと、第一因子として、「子どもをしっかり叱り、親の悪いところはきちんと指摘するきびしい父親的態度の医師像」、第二因子として「子育て世代の女性の医師像」、第三因子として「子どもにやさしい医院・病院」、第四因子「診療外地域活動」に積極的に取り組む医師、第五因子「インフォームドコンセント」のしっかりした医師、第六因子「近所の評判」がいい医師、第七因子「人柄」のいい医師、第八因子「いつでも診てもらえる診療体制」などが抽出された(表 15)。

質問に対する回答からは、かかりつけ医は、症状や薬についてよく説明すること、小児科専門医であること、スタッフの対応がよいこと、いつでも診てもらえる体制、人柄がよいこと、近所の評判がいいこと、子どもを可愛がるなどが上位ランクとして求められている。

## II. プレネイタルビジットに関する結果

24) プレネイタルビジットを知っていた親は、聞いたことがあるも含めて 9.0%であった (表 16、表 17)。

25) この制度を利用したものは 24 名であり、その感想は「生まれる前に子どものことを聞いていたので安心して出産に臨めた」、「出産後自宅に帰ってから役立った」と答えている (表 18、表 19)。

26) この制度があったら利用したい人は 56.4%であり、36.1%がわからないと答えていた (表 20、表 21)。

27) 生まれる前に子どものことを知っておくことは役立つことであるとする意見は 85.5%を占めていた。

## D. 考察

健やか親子 21 の重要な柱として、「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」が挙げられている。育児不安の軽減は、子育て中の親の子育てに関するストレスを軽減することにより、子どもの心の安らかな発達を保証使用というものである。地域における子育て不安の軽減には、多くの専門家の関与が必要である。とりわけ、小児科医師は地域における子育て中の親子との接点が多く、子どもの健康問題が、子育て不安の引き金になることが多いことか

らも、地域におけるかかりつけ医の存在は子育て不安を軽減するために不可欠な要件になる。

それでは、かかりつけ医が子育て中の親の子育て不安を軽減するための機能を果たしていると言えるであろうか。今回、本分担任研究班では子育て中の親がかかりつけ医に何を求めているか、さらに、子育て不安を軽減することが目的で事業化されているプレネイタルビジットについて、この制度を利用したことがあるか否か、あるとすれば、その感想はどうであるか、今後の必要性などについて調査を行った。

かかりつけ医をはっきり決めている親は約 75%であったが、多分、複数の医療機関を使い分けていると思われる親もふくめると、約 91%に達していた。かかりつけ医の約 70%は開業の医院であった。医師の専門性については、親の把握が正しいとは言い難いが、6割は小児科医であり、内科/小児科が約 3割を占める。かかりつけの医師の年代は、開業の医師の年齢が 40~50代が働き盛りということが関係しているようである。

最近では、院内で子育てグループなどのグループ活動を支援している医院や病院がみられるが、調査結果からは約 3%に過ぎなかった。また、医師以外に心理士などによる子育て相談の窓口を開いている医院・病院があるが、今回の調査結果からは約 9%に過ぎなかった。栄養士による栄養相談は昔から育児相談にセットされることが多いが、今回の調査でも約 26%にみられた。これからの子育て不安の軽減のためには、医師と医師以外の専門職の連携プレイが必要になる。

かかりつけ医を利用するときはどんなときかを訊ねると、急病のとき、予防接種、健康診査が殆どで、子育て不安、子どものことで相談、家族・家庭のことで相談したいときにかかりつけ医を利用するというのはわずか 8.2%に過ぎなかった。また、かかりつけ医から子育てのアドバイスを受けたことがあるかという質問では、殆ど受けていないか全く受けていないが、約 63%を占め、いつも受けているのは 4%に過ぎなかった。受けたアドバイスの感想を聞くと、約 90%は参考になったと答えており、わずか 2 例に母親の責任が強調され、一方的な説明で、かえって不安が増したとするものがあつた。

かかりつけ医に何を望むかでは、急病の時の対応、待たされない診療、健康への相談、予防接種が多いが、子育てへのアドバイスを望む声が約 43%あり、実際にかかりつけ医からアドバイスを受けている割合との間におおきな差がみられる。このことは、子育て中の親はかかりつけ医に子育てへのアドバイスを望んでいるが、実際には、ほとんど対応されておらず、医師という専門職の敷居の高さと診療の忙しさ、あるいは医師のカウンセリング技術不足が、地域の親が求めている需要を満たせないであることを示している。

求められる医師の年齢は 40~50 代が多いが、これは実際にかかっているかかりつけ医の年齢が重なっていると思われるが、壮年で働き盛りの年齢の医師が好まれることを表している。

子どものことでいつも相談する相手についてたずねた設問で、かかりつけ医が 28%を占めている。これは平成 12 年度に行っ

た幼児健康度調査における結果の 6.6%に対してはるかに高い。今回の調査は、対象者が都市部に偏っており、社会資源の多い都市を反映した結果とも考えられるが詳細は不明である。

かかりつけ医に何を求めるかを探ってみると、症状や薬についてよく説明してくれること、スタッフの対応がよいこと、夜間・休日でも対応してくれること、自宅から近いこと、必要があれば適切に専門機関に紹介してくれること、性格がやさしく人柄がよいこと、近所の評判がよいこと、子どもをかわいがり、医院・病院の設備がよいことなどが上位ランクとして挙げられている。24 項目について、因子分析を行うと、子どもをきちんと叱り、親の悪いところもきちんと指摘してくれる「父親的医師像」、子育てに共感してくれる「子育て世代の女性医師」、子どもをかわいがり、スタッフの対応もよく設備もよい「子どもにやさしい病院・医院」、地域活動など「診療外活動」を積極的に行う医師、症状や薬についてよく説明してくれる「インフォームドコンセント」のしっかりした医師、「近所の評判」のいい医師像、性格がやさしく「人柄」がいい医師、夜間・休日でも対応してくれる自宅から近い「いつでも診てくれる」医師像が抽出された。

プレネイタルビジットに関する集計結果からは、聞いたことがあるも含めて知っているものが、9% (90 例) に認められた。このうちこの制度を利用したものは 12 例であった。殆どのケースは安心して出産に臨めた、分娩施設を退院してから子育てに役立ったと答えている。実際に、初産では妊娠中には子どものことまで考えが回らず、

妊娠中に子どものことについての情報を得手も、あまり役に立たないという人もいる。今回の調査では、この制度を利用した人が少ないので、その感想について言及することはできないが、利用経験のない人が振り返って考えてみると、86%が役立つサービスであると答えている。

#### E. 結論

1) 全国 230 カ所の流通店舗内で展開されている財団法人母子衛生研究会が主催する母子保健相談室を介して、約 2300 件の乳幼児をもつ親に調査を行った。回収率は最終段階で約 45%であった。

2) かかりつけ医に何を望むかを聞くと、急病のときの診療、待たされない診療、健康診査、予防接種に並んで、子育てへのアドバイスと 43%の親が答えていた。しかし、実際に診療の現場で対応できている割合が低く、親たちのニーズが満たされているとは言い難い状況と考えられた。

3) かかりつけ医に求められる医師像は、子どもをきちんと叱り、親の悪いところもきちんと指摘してくれる「父親的医師像」、子育てに共感してくれる「子育て世代の女性医師」、子どもをかわいがり、スタッフの対応もよく設備もよい「子どもにやさしい病院・医院」、地域活動など「診療外活動」、症状や薬についてよく説明してくれる「インフォームドコンセント」、「近所の評判」のいい医師像、性格がやさしく「人柄」がいい医師、夜間・休日でも対応してくれる自宅から近い「いつでも診てくれる」医師像であった。

4) プレネイタルビジットを利用したものが 12 例あり、出産・子育てに役立ったと

回答していた。

#### F. 研究発表

平成 14 年度小児保健学会予定

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

アンケート調査に関して、財団法人母子衛生研究会の江井俊秀氏、白石幸弘氏、また各母子保健相談室の相談員諸兄姉に、多大なご協力をいただきましたことを、心より感謝いたします。

お断り：今回の集計は中間集計であり、調査報告書の完成版は平成 14 年度分担研究報告書に掲載する予定である。

## かかりつけ医に関する調査結果

表1：かかりつけの医院または病院はあるか

回答	N	%
ある	742	74.5
どちらともいえない	159	16.0
ない	89	8.9
無回答	6	0.6
合計	996	100.0

表2：かかりつけの医院あるいは病院は

回答	N	%
大体いつも同じ医院あるいは病院	698	77.5
いくつかの医院あるいは病院のうちから子どもの様子に応じて	181	20.1
無回答	22	2.4
合計	901	100.0

表3：どのような医院（病院）か

回答	N	%
開業の医院	692	68.4
個人の病院	77	7.6
大規模な病院	238	23.5
無回答	4	0.4
合計	1011	100.0

表4：開業の医院の場合の医師の専門は

回答	N	%
小児科	430	62.1
内科／小児科	202	29.2
内科	15	2.2
耳鼻科	14	2.0
産婦人科	5	0.7
その他	12	1.7
わからない	2	0.3
無回答	12	1.7
合計	692	100.0

表5：かかりつけ医の年齢は

回答	N	%
30代	44	6.4
40代	349	50.4
50代	189	27.3
60代	80	11.6
70代以上	22	3.2
無回答	8	1.2
合計	692	100.0



表6：かかりつけ医が病院の場合、いつもかかる診療科は

回答	N	%
小児科	283	92.5
産婦人科	7	2.3
内科	1	0.3
耳鼻咽喉科	1	0.3
その他	6	2.0
とくに決めていない	6	2.0
無回答	2	0.7
合計	306	100.0

表7：病院の場合、診てもらうのはいつも同じ医師か

回答	N	%
いつも決まっている	150	49.2
数人の決まった医師	112	36.7
いつもちがう医師	37	12.1
無回答	6	2.0
合計	305	100.0

表8：かかりつけ医の診療体制について

回答	N	%	
育児相談	いつでも	316	35.1
	日が決まっている	410	45.5
	やっていない	125	13.9
	無回答	50	5.5
予防接種	いつでも	404	44.8
	日が決まっている	458	50.8
	やっていない	17	1.9
	無回答	22	2.4
予約診療	ある	410	45.5
	ない	444	49.3
	無回答	47	5.2
夜間や休日の急病時	いつでも	255	28.3
	当番のときのみ	201	22.3
	診てもらえない	345	38.3
	無回答	100	11.1
医院や病院内の子育ての親子の集まり	ある	23	2.6
	ない	465	51.6
	わからない	406	45.1
	無回答	7	0.8
医師の診療以外の子育て悩み相談窓口	ある	85	9.4
	ない	462	51.3
	わからない	346	38.4
	無回答	8	0.9
栄養士による相談	ある	233	25.9
	ない	390	43.3
	わからない	270	30.0
	無回答	8	0.9
合計	901	100.0	

表9：かかりつけ医を利用するとき

回答	N	%
急病の時	794	88.1
予防接種	730	81.0
健康診断	551	61.2
子どもの事で相談したいとき	71	7.9
子育てに不安を感じたとき	9	1.0
利用できる専門施設の情報を知りたいとき	7	0.8
家族や家庭のことで相談したいとき	4	0.4
その他	15	1.7
無回答	4	0.4
有効回答者数	901	100.0

子育て不安、子どもの事、家族の事などで相談したいときにかかりつけ医を利用	74	8.2
--------------------------------------	----	-----

表10：かかりつけの医師からの子育てについてのアドバイス

回答	N	%
いつも受けている	38	4.2
ときどき受けている	279	31.0
殆ど受けていない	346	38.4
全く受けていない	227	25.2
無回答	11	1.2
合計	901	100.0

図1：かかりつけ医からの子育てのアドバイス

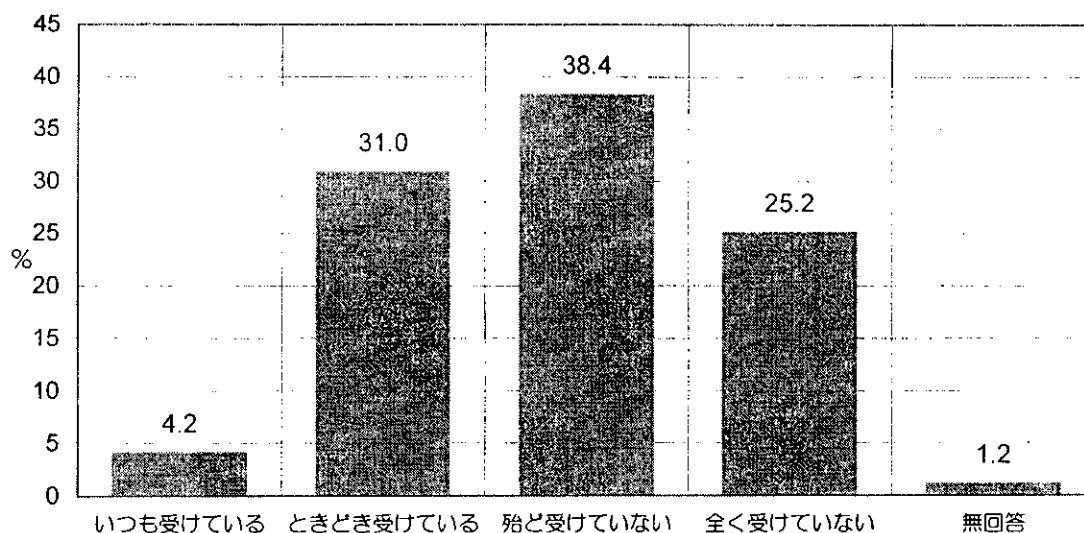


表11：アドバイスは参考になったか

回答	N	%
とても参考になった	91	28.7
参考になった	196	61.8
どちらともいえない	24	7.6
ほとんど参考にならなかった	2	0.6
無回答	4	1.3
合計	317	100.0

参考にならなかった理由（2例について）

回答	N	%
かえって不安が大きくなった	1	50.0
一方的な説明で受け入れがたかった	1	50.0
母親の責任が強調されて重荷になった	1	50.0
その他	1	50.0
回答者数	2	100.0

表12：かかりつけ医に何を望むか

回答	N	%
急病のときの治療	875	89.0
待たされない診療	666	67.8
健康診断や健康に関する相談	596	60.6
予防接種	545	55.4
子育てへのアドバイス	420	42.7
利用できる距離にあるいろいろな専門施設の情報提供	296	30.1
定期的な子育てについての勉強会	190	19.3
家族や家庭の悩みへの相談	55	5.6
その他	28	2.8
有効回答者数	983	100.0

表13：求められる医師の年齢

回答	N	%
30代の医師	14	1.4
40代の医師	299	30.3
50代の医師	225	22.8
60代の医師	36	3.6
70代の医師	2	0.2
無回答	412	41.7
合計	988	100.0

図2：求められる医師の年齢

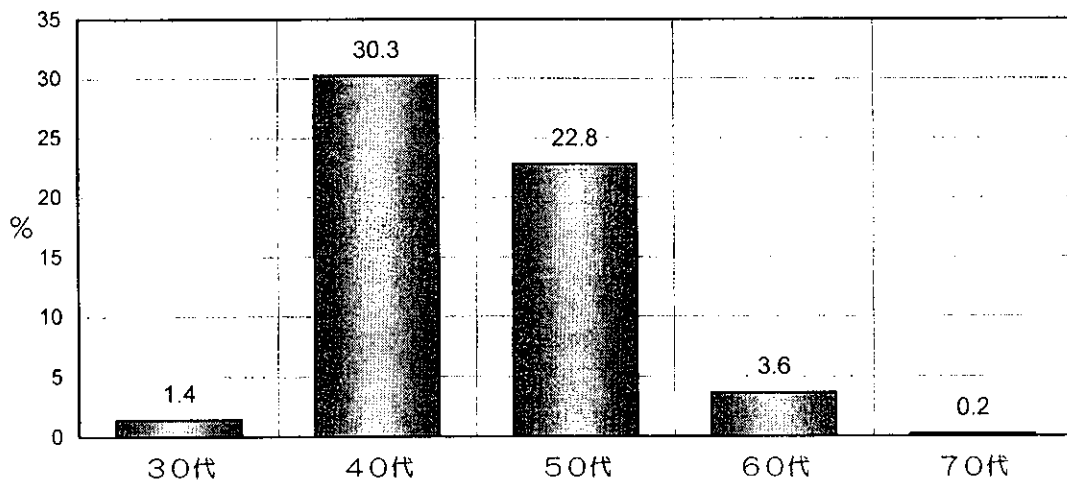


表14：いつも子どものことで相談する相手はだれか

回答	N	%
夫婦間	852	85.7
友人	726	73.0
祖父母	712	71.6
かかりつけ医	282	28.4
保健センターの保健婦	280	28.2
近所の人	196	19.7
その他	152	15.3
子育てサロン、子育て教室、子育て広場など	84	8.5
子育てグループ	78	7.8
出産した産院のスタッフ	67	6.7
保育園の保育士	63	6.3
電話相談室	57	5.7
母子保健推進員	57	5.7
インターネットの子育て相談	45	4.5
家庭訪問の助産婦	40	4.0
幼稚園の教諭	32	3.2
子育てアドバイザーやサポーター	18	1.8
だれもない	3	0.3
民生委員	2	0.2
愛育班員	2	0.2
有効回答者数	994	100.0

図3：かかりつけ医にとって大切な事はどのような事だと思うか

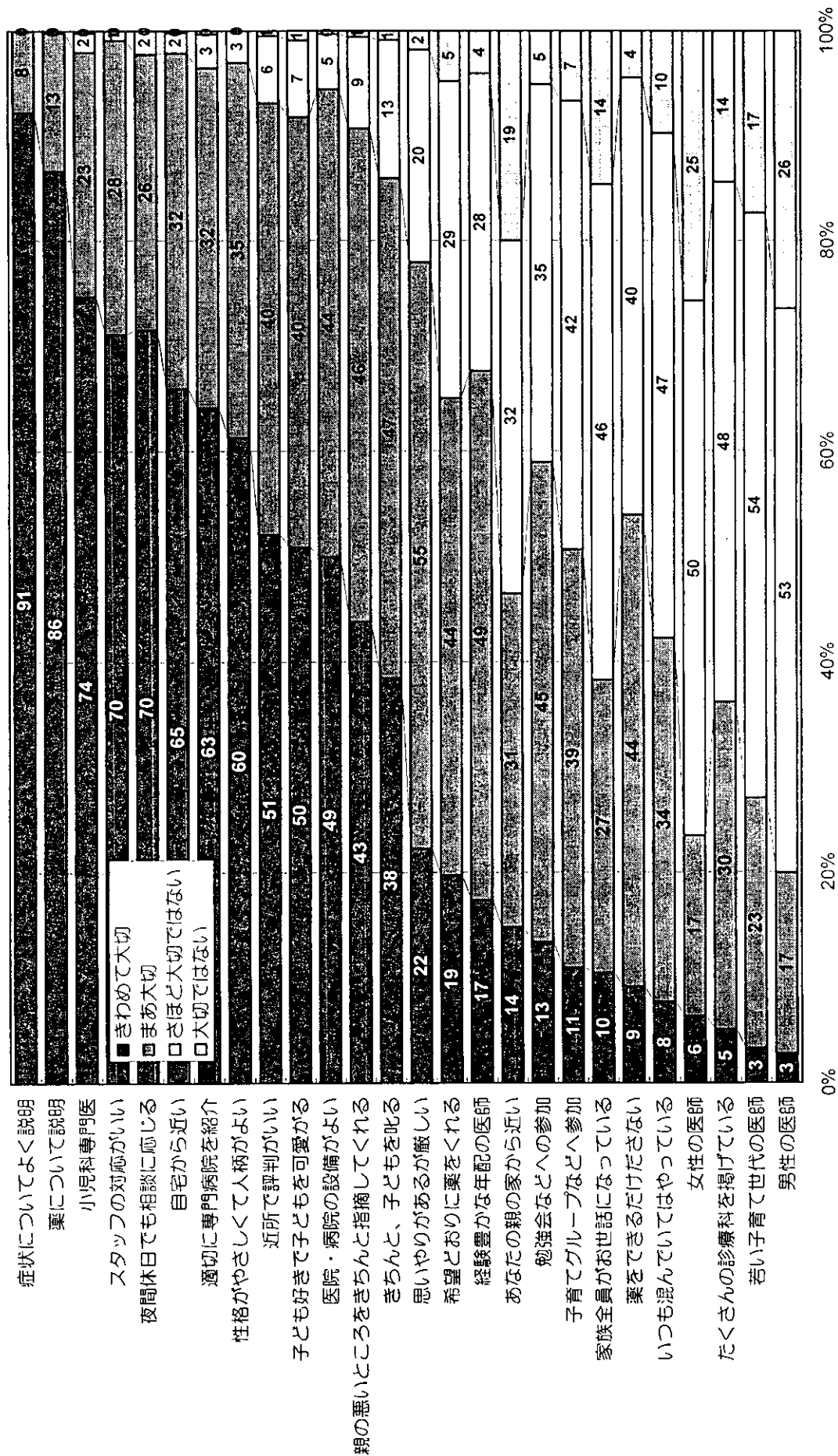


表15：かかりつけ医にとって大切なことはどのようなことか  
24項目による回転後の因子行列

項目	因子							
	第1因子 父親的医 師像	第2因子 子育て世 代の女性 医師	第3因子 子どもに やさしい 医院・病 院	第4因子 診療外活 動	第5因子 イン フォーム ドコンセ ント	第6因子 近所の評 判	第7因子 人柄	第8因子 いつでも 診療
きちんと、子どもを叱る	0.852	0.032	0.275	0.068	0.056	0.057	0.046	-0.021
親の悪いところをきちんと指摘してくれる	0.693	0.004	0.275	0.094	0.107	0.044	0.028	0.088
思いやりがあるが厳しい	0.394	0.031	0.010	0.063	0.004	-0.013	0.085	0.055
女性の医師	0.002	0.664	0.088	0.070	-0.026	0.032	0.080	0.082
若い子育て世代の医師	0.058	0.564	0.024	0.122	0.031	0.048	0.046	-0.073
医院・病院の設備がよい	0.125	0.116	0.600	0.101	0.053	0.134	0.019	0.224
看護婦さんなどスタッフの対応がいい	0.185	0.040	0.485	0.103	0.169	0.042	0.242	0.178
子ども好きで子どもを可愛がる	0.343	0.177	0.434	0.112	0.109	0.187	0.335	-0.056
子育てグループ・サークルなどへ積極的に参加してくれる	0.122	0.208	0.108	0.862	0.043	0.074	0.037	0.043
勉強会などへの参加をお願いすれば気さくに出席してくれる	0.185	0.187	0.104	0.724	0.061	0.086	0.049	0.106
薬についてよく説明してくれる	0.082	0.043	0.094	0.036	0.792	0.078	0.057	0.173
症状についてよく説明してくれる	0.079	0.036	0.141	0.053	0.783	0.006	0.040	0.113
いつも混んでいてはやっていない	0.028	0.200	0.164	0.101	-0.001	0.604	-0.029	-0.028
近所で評判がいい	0.087	0.135	0.269	0.028	0.102	0.531	0.211	0.176
性格がやさしくて人柄がよい	0.146	0.087	0.164	0.058	0.065	0.078	0.616	0.198
夜間休日でも相談に応じてくれる	0.055	0.014	0.118	0.065	0.097	0.095	0.039	0.428
自宅から近い	0.022	0.116	0.084	0.017	0.097	-0.030	0.082	0.388
家族全員がお世話になっている	0.234	0.363	-0.175	0.097	0.002	0.266	0.016	0.177
経験豊かな年配の医師	0.118	0.342	0.151	0.091	0.041	0.093	0.038	0.148
たくさん診療科を掲げている	-0.085	0.334	0.159	0.085	-0.021	0.100	-0.167	0.113
小児科専門医であること	0.038	0.109	0.314	-0.002	0.022	0.055	0.012	0.053
希望どおりに薬をくれる	-0.057	0.323	0.157	0.004	0.108	0.206	0.121	0.050
薬をできるだけださない	0.270	0.257	-0.119	0.143	0.068	0.196	-0.024	0.025
適切に専門病院に紹介してくれる	0.244	-0.046	0.324	0.082	0.146	0.088	0.054	-0.007

因子抽出法：主因子法・回転法：Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法

## プレネイタルビジットに関する調査

表16：プレネイタルビジットという制度を知っていますか

回 答	度数	パーセント
全く知らない	905	90.9
聞いたことがある	63	6.3
知っている	27	2.7
無回答	1	0.1
合計	996	100.0

表17：あなたのお住まいの市町村ではこのサービスが実施されているか  
(前問で聞いたことがある、知っていると回答したもの)

回 答	度数	パーセント
実施されていない	15	16.7
わからない	50	55.6
実施されている	24	26.7
無回答	1	1.1
合計	90	100.0

表18：過去においてこの制度を利用したか  
(前問で「実施されている」と回答したもの)

回 答	度数	パーセント
利用した	12	50.0
利用していない	12	50.0
合計	24	100.0

表19：利用した感想は

回 答	度数	パーセント
生まれてくる子どもについての話を聞いたけれど、あまり実感がわかず役立たなかった	2	16.7
生まれる子どものことを聞いていたので安心してお産に臨めた	9	75.0
出産後自宅に帰ってからの子育てに大いに役立ち、子育てに不安がわかなかった	7	58.3
出産後自宅に帰ってからの子育ては、聞いた話とは異なりあまり参考にならなかった	2	16.7
生まれる前に子どもの主治医が決まって安心	2	16.7
その他	1	8.3
有効回答者数	12	100.0

表20：この制度があったら利用しようと思えますか

回 答	度数	パーセント
利用する(した)と思う	562	56.4
わからない	360	36.1
利用しない(しなかった)と思う	64	6.4
無回答	10	1.0
合計	996	100.0

表21：生まれる前に子どものことを聞いておくことは役立つことだと思いますか

回 答	度数	パーセント
役立つことだと思う	852	85.5
わからない	121	12.1
役立つとは思えない	15	1.5
無回答	8	0.8
合計	996	100.0



# 地域におけるかかりつけの医師および 子育てグループに関するアンケート調査

## 調査実施研究グループ

- 1) 厚生労働省厚生科学研究子ども家庭総合研究事業「育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究」(主任研究員：東邦大学医学部新生児学教室教授 多田 裕) - 分担研究班「親からみたプレネイタルビジットとかかりつけ医」(研究員：大正大学人間学部人間福祉学科教授 中村 敬)
- 2) 厚生労働省厚生科学研究子ども家庭総合研究事業「地域における子育て支援ネットワーク構築に関する研究」(主任研究員：大正大学人間学部人間福祉学科教授 中村 敬)

調査責任者 大正大学人間学部人間福祉学科  
日本子ども家庭総合研究所  
中村 敬

問い合わせ先：大正大学社会福祉学専攻中村研究室  
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1  
電話：03-3918-7311 (代) (火、水、金)

母子愛育会日本子ども家庭総合研究所  
〒106-8580 東京都港区南麻布5-6-8  
電話：03-3473-8311 (代)

電話：048-471-3635 (自宅事務所)  
ファックス：048-476-2386 (自宅事務所)

E-mail: [ksan@rr.ij4u.or.jp](mailto:ksan@rr.ij4u.or.jp)

最初に、あなたのお住まいの市町村名を教えてください

市・区・町・村

I. あなたとご家族についてお尋ねします

質問1 あなたの性別（該当する方に○をつけてください）

1. 女性 2. 男性

質問2 あなたと配偶者（連れ合い）の年齢を教えてください（一つ選んでください）

あなた 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代以上

配偶者 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代以上 5. いない

質問3 お子様は何人ですか（一つ選んでください）

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上

質問4 お子様の年齢（今回相談室でご相談をされたお子さんを○で囲んで下さい）

1人目（ ）歳（ ）カ月

2人目（ ）歳（ ）カ月

3人目（ ）歳（ ）カ月

4人目（ ）歳（ ）カ月

5人目（ ）歳（ ）カ月

質問5 同居しておられるご家族は何人ですか

（ ）人（あなたを含んで）

質問6 ご夫婦とお子さん達以外に同居しておられる方は

（お子さん達からみた続柄）

1. いない

2. いる \_\_\_\_\_> 1. 父方祖父 2. 父方祖母 3. 母方祖父 4. 母方祖母

5. 叔父 6. 叔母 7. その他（ ）

質問7 いつも子どものことで相談する相手はどなたですか（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. ご夫婦間 2. 祖母または祖父 3. 近所の人 4. 友人 5. かかりつけ医

6. 保健センター（または保健所）の保健婦 7. 出産した産院（病院）・助産所のスタッフ

8. 家庭訪問できた助産婦 9. 保育園（所）の保育士 10. 幼稚園の教諭

11. 電話相談室 12. 「子育てサロン」、「子育て教室」、「子育てひろば」など

13. 子育てグループ・サークル 14. 民生委員 15. 愛育班員 16. 母子保健推進員

17. 子育てアドバイザーや子育てサポーターなど 18. インターネットの子育て相談

19. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ） 20. いない

質問8 あなたは、お仕事をしておられますか

1. している

2. していない

（8\_1 に進んでください）

▶8\_1 どんな形態のお仕事ですか

1. 常勤 2. パート 3. 自営 4. 農・漁業 5. 自宅でコンピュータによる仕事

6. その他（ ）

質問9 あなたは、普段、お子さんをどこかに（誰かに）預けていますか

（今回、相談室でご相談をされたお子さんについてお教えてください。ごきょうだいともにご相談の場合には小さい方のお子さんについてお教えてください。）

1. 預けている                      2. 預けていない

▶ 9\_1) 普段お子さんを預けているところはどこですか（該当するものすべてに○を付けてください）

1. 保育園または保育所    2. ベビーシッター    3. きょうだい    4. 幼稚園  
5. 両親    6. 友人    7. 保育ママ    8. その他（ \_\_\_\_\_ ）

質問10 冠婚葬祭や上のお子さんの行事、ご家族の病気などのとき、一時的にお子さんを預かってもらったことがありますか

1. ある                      2. ない

▶ 10\_1) お子さんの預け先について教えてください（今回、相談室でご相談をされたお子さんについてお教えてください。ごきょうだいともにご相談の場合には小さい方のお子さんについてお教えてください。）。

1. 市町村の一時保育所    2. ベビーシッター    3. きょうだい  
4. 両親                      5. 友人                      6. 保育ママ    7. ファミリーサポートセンター  
8. その他（ \_\_\_\_\_ ）

II. あなたのお住まいの近くで子育てに困ったときに手助けしてくれるさまざまな活動についてお尋ねします。

質問1 あなたは、地域の子育てグループ・サークルに参加していますか（一つを選んでください）

1. 参加している    2. 参加していない    3. 参加していたがやめた

2\_1 参加していない理由についてお教えてください（あてはまるものすべてを選んでください）。

- 1) 近くにグループ（サークル）がない  
2) 参加の必要性を感じない  
3) 人間づきあいが嫌だから  
4) 仕事（社会活動すべてを含む）があるので、参加している時間がない  
5) その他

3\_1 おやめになった理由についてお尋ねします（あてはまるものすべてを選んでください）。

- 1) 子どもが大きくなったから  
2) 新しい仲間ができたから  
3) 仲間との人間関係が嫌になったから  
4) 子ども同士のトラブルが多いから  
5) リーダーと意見が合わないから  
6) 仕事（社会活動すべてを含む）を始めたから  
7) その他

▶ 1\_1) それはどんなグループ・サークルですか（あてはまるものすべてを選んでください）

1. 保健センター、児童館、社会福祉協議会、公民館などが主催している子育てグループ・サークル  
2. 保健センターや児童館などのサークルから独立した子育てグループ・サークル  
3. お母さん（お父さん）同士で自主的に運営しているグループ・サークル

4. 子育ての先輩のお母さん、子育てサポーターやアドバイザー、あるいはいろいろな専門家（保母、保健婦、助産婦、看護婦、医師など）が加わって助言をしてくれる大きな組織的な活動（ネットワーク）
5. 民生委員さんを中心にした子育てグループ・サークル
6. 助産婦さんによる母乳栄養を中心とした子育てグループ・サークル
7. 文庫活動、演劇、野外活動など活動目的のはっきりしたグループ・サークル
8. 保育園や幼稚園が活動の場になっている子育てグループ・サークル
9. お子さんの習いごと（スイミング、幼児教室、英語など）でのグループ・サークル
10. 障害や発達の遅れのある子どもと親のグループ・サークル
11. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

1\_2 グループやサークルに参加した感想を教えてください（あてはまる番号に○をつけてください）

	とても そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	まったく そう思わない
1. 子育て仲間に知りあえた	1	2	3	4
2. いろいろと役立つ情報が得られた	1	2	3	4
3. 親同士のトラブルがある（あった）	1	2	3	4
4. 子どものしつけや教育に役にたつ	1	2	3	4
5. 専門家からのアドバイスを得ることができた	1	2	3	4
6. サークルの役割分担やお手伝いがめんどうだ	1	2	3	4
7. 子ども同士のトラブルがある（あった）	1	2	3	4
8. 場所さがしや企画運営がたいへんだ	1	2	3	4
9. 専門家（先生）やリーダーに問題がある	1	2	3	4
10. 親子で楽しい時間が過ごせる	1	2	3	4
11. 気分転換や生活リズムづくりにもなった	1	2	3	4
12. 子どもが同じくらいの友だちと遊べた	1	2	3	4
13. いろいろなタイプの親子がいることがわかった	1	2	3	4
14. 子育ての意見が合わない親子がいる	1	2	3	4
15. 子どものためにいやなことも我慢している	1	2	3	4
16. 自分や子どもが仲間はずれになったことがある	1	2	3	4
17. 同じような立場の親子と知りあえた	1	2	3	4
18. どこかのサークルに属している安心感がある	1	2	3	4
19. 子どもの社会性や能力を育てるのに役に立つ	1	2	3	4
20. 子育ての悩みや不安が解消できた	1	2	3	4

Ⅲ. お子様のかかりつけ医についてお尋ねします。

（以下、入院設備のあるところを“病院”、外来診療だけのところを“医院”とします。）

質問1 かかりつけの医院あるいは病院がありますか？（一つ選んでください）（今回、相談室でご相談をされたお子さんについてお教えてください）

1. ない  → 質問2へ進んで下さい
2. どちらともいえない
3. ある  →  以下の質問にお答えください

(1) かかりつけの医院あるいは病院は（一つを選んでください）

1. 大体いつも同じ医院あるいは病院にかかっている